

ツーリズムと草地保全

—安比高原におけるツーリスト調査から—

大橋めぐみ・澁谷 美紀・須山 哲男・川手 督也

(農業技術研究機構東北農業研究センター)

Tourism and Conservation of Grassland

—The case study of tourists in Appi highland—

Megumi OHASHI, Miki SHIBUYA, Tetuo SUYAMA, and Tokuya KAWATE

(National Agricultural Research Center for Tohoku Region, NARO)

1 はじめに

近年、景観保全・レクリエーションの提供など、草地のもつ多面的機能への期待が高まっている¹⁾。しかし、レクリエーションやツーリズムを草地保全に結びつけるには、いくつかの回路が必要である。こうした回路として、ツーリズムの経済効果が畜産振興に結びつくという回路、ツーリストへの満足を根拠として農業・福祉政策等が行われるという回路、ツーリストや観光業者がボランティア活動や基金等により、畜産の維持や草地の保全に貢献するといった回路等が考えられる。本稿では、これらの回路の前提となる、ツーリストの旅行行動、満足度、草地への関心について検討するため、岩手県安代町安比放牧共用林野を訪れるツーリストを対象に調査・分析を行った。

2 調査方法

調査対象地とした安比放牧共用林野(以下、中・奥の牧場という)は、かつては牛馬が放牧されていたことから、広々としたシバ型草地が形成・維持されてきた。1995年には「ブナの駅」という名称の休憩所も整備され、2000年にブナの駅を訪れたツーリストは、約2万人にのぼっている。しかし、1996年から中・奥の牧場への放牧は中止されており、放牧家畜の採食により抑制されていた灌木や新たに進入した種により、草地の森林化が進行しており、1976年には81

haであった草地は1997年には45%が林地へと変化した³⁾。

調査においては、3つの方法でアンケートを配布・回収した。2000年9月にブナの駅を訪れていたツーリストに配布したもの(以下、ブナの駅という)、2000年9月に、中・奥の牧場を訪れる内容のNHK講座の受講生に配布したもの(以下、NHKという)、2001年2月に付近のペンションの顧客名簿から、2000年の夏期に中・奥の牧を訪れた人を選んで郵送したもの(以下、郵送という)である。

3 調査結果及び考察

(1) ツーリストの特徴と旅行行動

ツーリストの居住地の分布を見ると、盛岡市からのツーリストが52%を占め、日帰り客が58%となっている。男女比に偏りはないが、平均年齢は51歳と比較的高い。旅行目的は、郵送は「自然や文化を学ぶ(32%)」、ブナの駅は「山菜・きのこ取り(21%)」、NHKは「自然や農山村のなかですぐす(33%)」「ドライブ(19%)」という回答が多い。

(2) ツーリストの満足度

中・奥の牧場の訪問回数を見ると、2回以上のツーリストが78%を占め、今後2年以内にまた来たいと答えるツーリストは95%となり、ツーリストの満足度は非常に高いと言える。中・奥の牧で素晴らしいと思うものについての自由回答を見ると、景色やブナ林への評価が高い。また、山野草への関心も高く、植物の「だいたいの種名が分かる」

表1 旅行前の期待と旅行後の満足度

	ブナの駅				NHK				郵送			
	旅行前	旅行後	差	t 値	旅行前	旅行後	差	t 値	旅行前	旅行後	差	t 値
交通	0.85	0.91	-0.06	-0.34	0.82	1.18	-0.36	-1.14	0.63	0.04	0.59	2.21**
食事	0.65	0.58	0.07	0.46	1.31	1.31	0.00	0.00	0.90	0.55	0.35	1.84*
商店	0.27	0.39	-0.12	-0.65	0.81	0.31	0.50	1.94**	0.45	0.14	0.31	1.12
散策路	1.39	1.54	-0.15	-1.27	1.56	1.78	-0.22	-1.00	1.76	1.90	-0.14	-1.07
案内	1.22	1.24	-0.05	-0.31	1.42	1.63	-0.21	-1.00	1.43	1.60	-0.17	-1.10
サービス	0.88	0.63	0.25	1.41	1.44	1.56	-0.12	-0.62	1.13	1.10	0.03	0.24
人情	0.96	0.88	0.08	0.50	1.67	1.72	-0.05	-0.33	1.53	1.47	0.06	0.40
伝統文化	0.71	0.61	0.10	0.63	1.00	1.00	0.00	0.00	0.47	0.23	0.24	0.75
低料金	0.64	0.59	0.05	0.32	0.94	1.19	-0.25	-1.17	0.83	0.60	0.23	1.37
自然景観	1.66	1.80	-0.14	-2.10**	1.60	1.80	-0.20	-1.07	1.73	1.87	-0.14	-1.44
農村景観	1.47	1.64	-0.17	-2.02	1.59	1.82	-0.23	-1.17	1.67	1.60	0.07	0.57
自然生態系	1.33	1.56	-0.23	-1.88**	1.71	1.82	-0.11	-0.62	1.60	1.60	0.00	0.00
農村生態系	1.29	1.31	-0.02	-0.19	1.47	1.71	-0.24	-1.00	1.23	1.03	0.20	1.14
自然環境	1.71	1.76	-0.05	-0.75	1.61	1.83	-0.22	-1.29	1.69	1.83	-0.14	-1.44

*は5%水準で米は10%水準で有意な差があるという

というツーリストが35%を占めた。「自動販売機がなくて不便だ」という回答もある一方で、「人工的でないことに魅力を感じる」という回答もみられた。

食事や交通などの観光インフラと、自然や景観などの地域資源の保全とのバランスは重要な課題である。本調査では具体的に15の項目について、ツーリストの旅行前の期待と、旅行後の満足度を質問した³⁾。表1の「旅行前」とは、旅行前の期待について、最高を2、最低を-2とする5段階評価を行った平均値である。「旅行後」も、同様に求めた旅行後の満足度を指す。全体的に、食事や交通などの観光インフラに対する期待や評価は比較的低く、景観や生態系などへの期待や評価が高くなっている。

旅行前と旅行後に有意な差があるかを検定したところ、表1の結果となった。ブナの駅を訪れたツーリストは、自然景観や農村景観等の旅行後が旅行前を上回り、予想より満足できたと評価している。商店や食事などには、旅行前の期待の水準が低いので、不満には思っていない。郵送のツーリストでは、交通や食事への旅行前の期待が比較的高いため、旅行後が旅行前よりも低い値となり、予想ほど満足できなかったという結果になった。NHKは、商店以外のほとんどの項目で、旅行前と旅行後が一致し、期待も満足度も高くなっている。また、低料金で旅行できることへの評価を見ると、ブナの駅、NHKの満足度が比較的高く、郵送は、それほど低料金であると評価していない。

(3) 草地保全の意志

ツーリストの中・奥の牧場に対する意識を見ると、将来に「是非残して行きたい」という積極的な回答が61%を占め、「できれば残したい」という回答の23%を上回っている。また、実際の保全の方法については「牛の放牧(45%)」「草刈(31%)」が多く、「草地を維持する必要はない(森林に戻すなど)」という回答は11%であった。保全の費用を負担すべき主体については「安代町全体(55%)」「国民全体(43%)」という回答が多く、公的機関が行うべきとの意識が強い。しかし、「訪れる観光客(17%)」も3番目に多く、労力負担についても「公的機関(66%)」について「ボランティア(40%)」という回答が2番目に多かった。特に、NHKはボランティアを選択する率が高く(52%)、NHK講座の卒業生の多くが実際に安比高原におけるボランティア活動に参加していることから、積極的な負担の意志があると考えられる。

さらに、仮想市場評価法を適用し、もし「景観保全基金」を作った場合、いくら払う意志があるかについて質問したところ、ツーリストの支払ってもいい金額の平均は、一人あたり年額2000円程度となった。仮に、2000円に年間の来訪者数2万人をかけると、4000万円となる。

そこで、実際の保全費用について試算を行った。保全する草地の規模については、ここでは、シバ草地の核心部分として、便宜的に10haとした。まず、岩手県岩泉町安家

森におけるサポーター制を参考に、放牧による管理費用について試算を行った。安家森では2000年度に、岩泉町からの基盤整備補助金75万円を用いて500mの牧柵を設置し、64人のサポーターが1人年8,000円支払っている会費等を維持管理費として、牛の放牧を再開した。牛は所有者の好意で5頭を2ヶ月間無償で借りて放牧しており、牛の看視代は2ヶ月分160,000円となっている。そこで、中・奥の牧場においても、無料で借り入れた牛5頭を2ヶ月間放牧すると仮定し、さらに、1000mの牧柵が既に設置しており、補修を行うだけと仮定して試算したところ、放牧による草地の管理費用は、年間計342,000円となった。

また、草刈りによる管理費用試算については、委託によって10haの草地の刈り払いを行い、日当16,100円で10人が約11日草刈りを行うとして試算したところ、1,787,100円となった。現実には様々な困難があるものの、試算の上からは、中・奥の牧場において放牧の再開により草地を管理することが最も効率的であるという結果となった。

4 ま と め

ツーリストにはいくつかのタイプがあるが、地域への経済効果が高いのは、郵送のツーリストの多くを占める宿泊客である。こうしたツーリストの草地への関心や満足度は高く、付近のホテルやペンションにとっても、草地は重要な観光資源となっている。しかし、数が少ないため、観光関係者が主体となり、草地の保全を図る段階にはなっておらず、今後は、地元の観光業者と畜産業との結びつきを確立する必要がある。

一方、ブナの駅やNHKの講座に参加するツーリストの大半は近郊からのツーリストで、日帰り客が多い。自然を楽しむため低料金で気軽に繰り返し訪れたいという意向があるため、大型観光地と比較して、あまり大きな経済効果は追求できないと考えられる。しかし、ツーリストの満足度は高く、環境への知識も深まっており、草地保全の活動への参加の意志も高いと言える。ツーリズム資源でもある草地保全のためには、今後は、ツーリストによる基金などの取り組みや、レクリエーション政策による公的な負担が重要であると考えられる。

引用文献

- 1) Butler R. C.; Hall M.; Jenkins J. eds, 1998. *Tourism and Recreation in Rural Areas*, John Wiley & Sons. 179-196.
- 2) Dearden P.; Harron S. 1994, 'Alternative Tourism and Adaptive Change', *Annals of Tourism Research* 21(1): 81-102.
- 3) 須山哲男, 竹中昭雄, 渋谷幸恵. 2001. 岩手県安比牧野(奥の牧・中の牧・焼野の牧)の草原景観の変化. *日本草地学会誌* 47(別号): 50-51.